

解体か保存か？

大槌町役場旧庁舎に関し提言

当時の町長を含め職員40人が津波の犠牲となった大槌町役場の旧庁舎について、町の検討委員会が今後のあり方を提言。検討委員会の委員長を務めた豊島正幸・岩手県立大学教授が大槌町の碓川豊町長に報告書を提出しました。有識者や遺族ら11人の委員は去年11月から3回に渡り、旧庁舎の望ましいあり方について議論を重ねてきました。報告書には「鎮魂の場や記憶を風化させない取り組みが必要」、「周辺を歴史をふまえた公園として整備する」といった提言が盛り込まれましたが、庁舎自体については保存、解体の様々なパターンの提示にとどまりました。碓川町長は今月中に結論を示すとしています。(3/15 ニュースエコー)

被災の旧庁舎
今後のあり方は

感謝のエール

中学生が被災地派遣警察官を見送り

東日本大震災の復興支援のため宮古警察署に出向し、任期を迎えた警察官の送別式が19日宮古警察署で行われました。任期を迎えたのは警視庁や青森県警など9都県の警察官あわせて37人。一年あまりの間、治安の維持や交通整理など被災地で多くの活動をしてきた出向警察官に宮古市立河南中学校の生徒たちからは感謝のエールが送られました。生徒達からは感謝の気持ちを込めた色紙も贈られ、出向警察官たちは感激しながら被災地で活動した日々を振り返っていました。(3/19 ニュースエコー)

宮古警察署で送別式
出向警察官へ感謝のエール

20日は彼岸の中日

被災遺族も墓参り

20日は春分の日、彼岸の中日です。沿岸の被災地では朝早くから震災で亡くなった家族らを弔おうと人々が墓参りに訪れました。県内で震災の犠牲者が最も多い陸前高田市。普門寺には身元が分からないまま火葬された14人の遺骨が埋葬されていて、この日も朝から供養が行なわれました。海を見下ろす墓地には今も地震で倒れたままの墓石がある一方、あの日の日付が刻まれた新しいお墓も建てられています。訪れた人たちは墓前でじっと手を合わせ、亡くなった家族や知人の冥福を祈っていました。

(3/20 ニュースエコー)

彼岸の中日
震災犠牲者の墓を弔う

大船渡初

高台移転先の造成工事始まる

大船渡市で市内初となる高台移転先の造成工事が始まりました。400棟もの建物が被災した大船渡市では、

22か所で高台に宅地を整備し、550世帯が移転する計画です。市内第1号の工事着手となったのは、三陸町の泊地区と末崎町の小細浦地区で、21日は安全祈願祭が行われました。泊地区では8500平方メートルの休耕田を宅地に造成し、13戸が移転する計画です。移転を予定する人は「子どもたちがお盆や正月に来るためのふるさとのことができる」と、完成を楽しみにしていました。造成工事は今年末には終わり、来年早々にも住宅の建設が始まる予定です。(3/21 ニュースエコー)



大船渡市内で初の工事着手

三陸町の泊地区と末崎町の小細浦地区



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122